



これからの協会の活動を見つめて

会長 白垣善行



本年度は、会員皆様のお蔭で様々な活動ができました。また、この様に充実した会報が発行でき感謝しております。

早いもので私が会長に就いてから5年が過ぎました。初めて協会に所属したころ、ちょうど

行政主体の活動から民間に移行し、会長が市長から前大石会長へ代わった時でした。

現在の富士宮市国際交流協会は、会員が委員会に参加し、会員のボランティア活動により協会が支えられています。以前より会員の活動が活発化され、行政では取り組めない部分や柔軟性が増え、多方面での活躍の場が増えてきています。私自身、協会員の意思によ

り富士宮市国際交流協会の活動が盛んになっていることが大変素晴らしく思っています。しかし、ボランティア活動が増えることにより会員への負担なども増え、更なる行政との連携と支援が必要になってきています。

私たちは、国際交流という大きな枠組みの中での活動をし、多岐にわたる支援活動、海外との交流、市民との交流事業を行ってきております。今後、行政と国際交流についての協議をより密にし、富士宮市国際交流協会と富士宮市の協力体制の強化や他の団体との交流などにも力を入れ、協会員が活動しやすい環境作りを考えております。

今後とも富士宮市国際交流協会の飛躍と楽しく活動ができるよう、皆様のお力添えいただければ幸いです。

富士宮市国際交流協会 平成24(2012)年度事業

- | | |
|---|--|
| <p>4月・中国紹興市訪問団来宮
・友好交流関係都市提携15周年記念レセプション
・交流都市パネル展</p> <p>5月・総会 + 二胡ミニコンサート
・第1期語学講座・日本語教室開始</p> <p>6月・世界の料理教室「ブラジルの台所から」
・国際理解講座「アミーナと踊ろう！」
・市制70周年友好都市パネル展</p> <p>7月・韓国・栄州市へ友好訪問
・国際交流パーティ「七夕ポットラックパーティ」
・市民交流コンサート「ドイツ・ハレ大学管弦楽団演奏会」
・外国籍児童生徒のための進学説明会</p> <p>8月・子ども国際理解講座「夏休み！子ども英語講座」</p> <p>9月・第2期語学講座・日本語教室開始
・世界の料理教室「韓国の家庭料理」</p> <p>10月・国際交流パーティーポットラックパーティ～月宴～
・外国籍市民対象防災訓練</p> <p>11月・韓国栄州市と友好交流関係都市締結
・市内中学校生徒栄州市訪問
・中央公民館合同発表会参加</p> | <p>・国際交流フェスティバル
(栄州市栄光中学セロトンドラム・クラブ来宮・特別出演)</p> <p>・国際理解講演会「ロンドン成り行き半世紀」
・日本語支援ボランティア養成講座開始</p> <p>12月・フェスティバル ポットラック打上げ
・中国紹興市へ行政訪問</p> <p>1月・第3期語学講座・日本語教室開始
・国際理解講座「もっと韓国 文化と言葉について知ろう！」</p> <p>2月・日本語支援ボランティア研修会
・世界の料理教室「フィリピンの家庭料理」</p> <p>3月・第3回写真コンテスト「私が見た世界」
・甲府市視察
・外国人対象日本料理教室</p> |
|---|--|

上記以外に年間を通して、市内小中学校での日本語を母国語としない生徒への日本語指導と、宮原区民館で外国籍住民のための「にほんごclubみやはら」を行っている。また、「広報ふじのみや」の外国語版(英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語)を制作し、公共機関やスーパーマーケットなどに配布、ホームページに掲載している。

- 富士宮市国際交流協会は、会員有志から成る3つの委員会が中心となり、協会事業を推進しています。

文化交流委員会

FAIRの広告塔となる文化交流委員会では、国際理解講座・世界の料理教室・国際交流パーティーといった、外国の文化に触れ、理解し、異文化交流の持てる場として各イベントや講座を年3～4回開催しています。

25年度も過年度と同様、国際理解講座・世界の料理教室・国際交流パーティーなどを開催していく予定です。また、新たな企画が生まれることも想定しながら、メンバーと力を合わせて取り組み、チャレンジしていこうと思っています。

お互いの文化を理解し、楽しく交流が持てる時間を作っていきますので、興味のあるイベン

トや講座があれば、ぜひ参加してください。また、一緒にイベントや講座の企画運営に加わってくれるメンバーも随時募集していますので、声をかけてください。



白垣 智緒美 委員長

多文化共生委員会



「多文化共生」という言葉は、現代のキーワードの一つでもあります。ここ富士宮市にも、様々な文化的背景をもった人々が暮らしています。

多文化共生委員会では、日本人・外国人という枠組みを超え、互いの文化価値観を尊重しながら、ともに寄り添い合い、支え合って生きていくために必要なサポートを主な活動としています。

具体的には、外国人のための防災訓練や日本語支援、市内小中学校における児童生徒の日本語及び学習支援と、それらを実現するための「学び」を行っています。

これらの活動を通して、外国の方々と知り合い、友達になることで、「富士宮は住みやすい町だ」と感じてもらえたらうれしいですし、私たちも心豊かになっていくように思います。

西村 久美子 委員長

都市交流委員会

平成24年度より「紹興市交流委員会」から「都市交流委員会」と名称と活動内容を一新して、スタートしました。中国紹興市や海外都市との交流や、他市国際交流協会との交流事業を支援しています。紹興市とは市民、中学生の訪問団派遣、受け入れの交流を続け、平成24年度は友好交流関係都市提携15周年を迎え、紹興市長をはじめとする訪問団を招き、記念事業を行いました。

また、11月に韓国の栄州市とも友好交流関係都市の締結をしたので、紹興市と同様に市民

同士の交流を推進していきます。



篠原 千穂 副委員長

富士山お山開きに 英駐日大使館メルローズ書記官来宮

文化交流委員会 副委員長 原 義 廣

夏山シーズン幕開けで、7月1日(日)、富士山の山開きが行われた。富士山本宮浅間大社で開山祭が、続いて村山浅間神社で入山式が盛大に行われた。

大社広場での式典は「富士山を世界遺産に」の横断幕を先頭に、地元青年の行進、富士宮囃子の奉納、英駐日大使館メルローズ書記官一行の出迎え、富士登山一番バスの安全祈願が執り行われた。

拝殿では、須藤富士宮市長、行政関係者、来賓、観



光協会、国際交流協会関係者、市民多数が列席して開山式が行われた。そして大宮小学校児童から英駐日大使館メルローズ書記官一行へ英語のスピーチや絵手紙等の交換で交流がもたれた。

場所を村山浅間神社の移し、富士山入山式を行った。古式による護摩神事、禊儀式が執り行われ、オールコック卿富士登山150周年記念碑に献花した。

式後、富士根北小中学生が「富士山」の合唱やリコーダーによる「威風堂々」の演奏を披露して書記官一行と交流が持たれた。

海外 レポート1

アメリカ・シアトルにあった日本の心

松 永 志 帆



昨年4月にシアトルにて富士宮やきそばを販売してきました。海外進出の際は“Mt. Fuji Yakisoba”と表記します。このネーミングだとやはり海外の人にも、日本のどこから来たのかすぐ理解してもらえます。在シアトル日本領事館の領事に富士宮出身の方がいらっしゃり、そのご縁からシアトル桜祭・日本文化祭に招待されました。「一年に400日雨が降る」と言われるシアトルで、快晴のなか、桜も咲き絶好の祭日和でした。



空港に着いてまず驚いたのは案内に日本語表記があること。イチロー選手効果でしょうか。このときはイチロー選手がまだマ

リナーズに在籍していたので、もちろん観戦。彼がバッターボックスに入るとものすごい歓声なのが、こちらも興奮すると同時に日本人としてとても誇らしく思いました。4番打者よりも大きい歓声なのですから。

販売に際してはシアトル静岡県人会の皆様が大変お世話になりました。パック詰め、削り粉かけなどみごとな連携プレーもあって2日間で約1,200食、大好評のうちに完売しました。

遠く離れた地にあった「和」の心に感動し、また今回PRしてきたことでシアトル市民がいつか富士宮に足を運んでくれたらうれしいです。

富士宮市紹興市 友好交流



職員、来庁した市民で迎えました



友情の樹よ大きく育て！



紹興市人民政府庁舎で



提携15周年の表敬あいさつ

浙江省紹興市より、銭建民市長を団長とする訪問団26人が来宮。須藤秀忠富士宮市長をはじめ、市の職員や来庁者が拍手で一行を迎えました。今年は友好の提携を結んで15年という節目の年。庁舎内での表敬訪問の後、15周年を記念して庁舎駐車場の一角に、富士宮市の木である「カエデ」を、両市の友情と交流がこの樹の成長とともに空に広がるようお願いを込め、須藤市長と銭市長らの手で植樹しました。

FAIR主催の提携15周年レセプションは市内の“コラボ”で開催。大きな樽酒の鏡割りが乾杯の合図となり、枱やグラスを掲げ、15年築き上げた友情と交流を祝いました。

紹興市との交流は、工業技術の研修から始まっています。この記念レセプションに会員である表富士工業団地の代表者が列席しており、また紹興市からは行政関係だけでなく、経済関係企業の代表者らが参加し、歴史を振り返るような場にもなりました。

市内酒蔵からの日本酒と紹興市から届いた紹興酒で、何度も乾杯を重ねた後、「北国の春」を日本語と



銭市長と都市交流委員のみなさん

関係都市提携 15 周年記念

中国語で合唱。両市長が扇動し、出席者たちをステージに上げ、大いに盛り上げてくださいました。

後に、銭市長から感謝を記した手紙が届きました。その中に記された銭市長から須藤市長へ贈られた七言絶句を紹介します。

以酒盟城率史先
会稽富士賦新篇
開樽今夜歡歌意
十五春秋織錦綿

意味：

酒を持って城（市）の友好の契りを交わし歴史を綴る
会稽と富士（両市にある山を市に見たて）は新たな詩文を編もう
樽が開かれた今夜、喜びの歌で
十五の春秋を錦綿で彩る



培ってきた友情に乾杯！



『北国の春』を中国語と日本語で大合唱

～紹興市は霧にまつまれて～

事務局（くらしの相談課）市川 祐介

2012年11月に、須藤市長を団長とした30人の大訪問団を派遣し、紹興市主催の記念式典に出席、の予定だった。ところが中国共産党大会と重なったことと、日本と中国間の問題により、11月の派遣は見送らざるを得なくなってしまった。

しかし、12月に静岡県からの浙江省訪問団参加依頼があり、それに便乗のかたちで、紹興市へ芦澤副市長を団長とした7人の行政関係訪問団を派遣し、15周年を祝うことができた。

紹興市では、解曉波副主席、紹興市外事弁公室の謝振江主任をはじめ、多くの方々が私たちを歓迎してくれ、最高級の紹興酒で何杯も乾杯を重ねた。国と国の付き合いの難しさを感じる一方で、心からのもてなしを受け、人と人のつながり、交流の大切さを実感した。中国紹興市の真意はどのようなのか。12月26日の紹興市は、霧にまつまれていた。

今回はあいにくの雨で、紹興の街をすみずみまで見られなかったが、次は晴れた日にゆっくりと歩いてみたい。また、多くの富士宮市民に訪れてほしいと思う。次に訪問団が結成されるのは、もう少し先になりそうだが。

“ああ、紹興。富士宮市と紹興市に幸あれ”



紹興市風景

韓国・栄州市と友好交流提携



友好交流関係都市提携

2012（平成 24）年 11 月 5 日

須藤秀忠富士宮市長と金宙榮（キム・ジユヨン）
栄州市長が協定書に署名。記念品として、栄州
市から屏風を、富士宮市からは陶器の絵皿を交
換した。



秋まつりを楽しむ金市長一行

■ 栄州市紹介

人 口 116,000 人

面 積 668.9km²

特産品 豊基高麗人参、栄州りんご、栄州韓牛、
栄州米、卵、ブドウ、人絹等

特 徴

ソウルから高速道路で約 3 時間の栄州市は、富士宮市と国立公園をはじめとした自然環境、農業や人口規模など共通点が多くあります。

工場団地には、東洋一のタバコ生産工場があるほか、高麗人参を生かした製造工場などがあります。

また、華嚴宗の道場であり、韓国で一番歴史のある

日本 富士宮市 友好交流
 歓迎
 일본 후지노미야시 우호교류
 2012. 7. 6(金) 17:30



浮石寺をはじめ、伝統文化遺跡が残っていて歴史の息吹とソンビ精神を感じられる都市です。

※ソンビとは学識に優れ、礼節を重んじ、利欲に心を動かさない立派な人柄をもった人。





韓国栄州市との交流は、平成 16 年 8 月に富士市、富士宮市で開催された富士日韓交流協会主催のサッカー交流試合に両サッカー協会中学部の協力要請があり、参加したことから始まった。

平成 17 年度、文部科学省の日韓スポーツ交流事業「日韓共同未来プロジェクト 2005 静岡県富士宮市・韓国栄州市少年サッカー交流事業」として、富士宮サッカー協会が事業委嘱を受け、加藤康雄会長以下スタッフ 9 人、小学生 2 チーム 32 人、計 42 人の派遣団で、7 月 24 日（日）から 29 日（金）までの 5 泊 6 日の日程で栄州市を訪問。東洋大学の計らいにより、大学ゲストハウスを宿舎に提供してもらい、国際交流協会の熱烈な歓迎を受けた。

翌 18 年 10 月、富士宮サッカー協会初の社会人海外遠征として、富士宮市役所サッカー部 20 人が 3 泊 4 日の日程で訪韓。栄州市役所サッカー同好会とサッカー交流を実施した。

19 年は栄州市役所サッカー同好会と国際交流協会金晋榮^{キムジンヨン}会長らの訪問団の計 31 人が富士宮市を訪問した。富士宮市役所サッカー部とのサッカー交流試合し、市長表敬訪問懇親会や大規模酪農施設視察、市内観光をした。

また同年の 11 月、国際交流協会 金晋榮^{キムジンヨン}会長、東洋大学 鄭完洙教授、朴在石 博士（農業試験場研究員）3 人が井出牧場、富士花鳥園、高原製茶工場、養豚施設、丸子の山芋農場など見学・視察のため来宮。



視察も多くありました

平成 20 年 8 月、富士宮サッカー協会の小中学生 30 人と協会スタッフら 5 人、計 35 人が 4 泊 5 日で栄州市を訪問。栄州市小中学選抜サッカー少年とのサッカー交流を実施。また、訪問中に栄州市豊基中学校サッカー部から交流試合の申し込みがあり、同校と親善サッカーの交流も行った。

この栄州市訪問の際、金晋榮^{キムジンヨン}国際交流協会会長及び金宙榮^{キムジュヨン}市長から富士宮市との公式な国際友好都市交流等について、サッカー協会に協力依頼があり、小室直義前富士宮市長へその旨を伝え、友好都市提携について検討がはじまった。

平成 22 年夏、第 25 回記念となる富士山カップ少年少女サッカー大会に栄州市豊基初等小学校チームを招聘した。豊基小校長、スタッフと選手の 23 人が大会に参加。選手以外に金宙榮^{キムジュヨン}市長、国際交流協会の役員、家族など 18 名も応援に駆けつけた。

このように栄州市とは、富士宮サッカー協会が中心となり、サッカーを通じて小中学生などが相互に交流を深めてきた。

民間交流が継続される中、金宙榮^{キムジュヨン}市長から熱心な招き受け、身近な外国である韓国と交流するべきと、平成 22 年に小室前市長、吉田前議長が栄州市を訪問した。

それを受け、翌年 11 月、栄州市長や栄州市議会議長らが富士宮市を訪問。

さらに 24 年 7 月、須藤市長、朝比奈議長、白垣国際交流協会会長などが栄州市を訪問し、友好都市提携の日程、中学生の相互交流の方法などについて協議してきた。

10 月末には、富士宮市の中学生が栄州市を訪問。授業に参加し、栄州市の中学生と交流を深めた。



サッカーから交流が始まりました

提携までの交流のあゆみ

都市交流委員会副委員長 京角好美



富士山カップに招待

富士宮での思い出

マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク室内管弦楽団指揮者
マティアス・エルベン（ドイツ側演奏旅行企画総責任者）

2012年7月25日、富士宮市民文化会館に到着。オーケストラ練習の後、ホストファミリーへ。私たちの情報をすでに受け取っていたホストの皆さんの心温まる出迎えに感激し、最初の夜を過ごしました。

翌日、バスで富士山5合目へ散策に出発しました。バスの中では、ガイドの大沢さんが興味深い説明をしてくれ、歌まで披露してくれました。5合目に到着し



富士山と田園風景の写真をお土産に

山登りを始め、宝永山までの散策を開始。様々に変化する見晴らし、天候の変化、息をのむような富士山の表情、印象的な植物の数々…。す

ばらしい体験でした。

夜は市民会館で富士宮のオーケストラ、合唱の皆さんとの練習。これもすばらしい出会いでした。練習では言葉の壁があるにもかかわらず、問題なく意思疎通ができました。

7月27日（金）、感謝の気持ちを込めてランチコンサートを行いました。コンサートマスターのアンドレアス・トレンクナー始め、私たち奏者とアネット・ボーゼの独唱によるヘンデルや1930年代のドイツ歌曲を演奏し、多くの皆様から暖かい拍手を受けました。そして、名物と聞いていた「やきそば」を、初めての食感でしたが、とてもおいしく頂きました。

この日はゲネプロと演奏会です。私の指揮で演奏したモーツァルトの「戴冠ミサ曲」では、オーケストラ、

ドイツ ハレ市 マルティン・ルター大学オーケストラ来宮



リハーサル風景



盛り上がったフィナーレ



日本の食卓を囲んで



ドイツのサロン音楽を聴きました

合唱団、そして4人のソリストが一体となりました。また来場者の皆さんとともに、国境を越えた喜び、言葉の障壁を超え、まるでモーツァルトの音楽のきらめきが空間を超えて飛んできたような、私にとってとても幸せな時間でした。

7月28日(土)、富士宮駅に集合し、ホストの皆さんと市役所の国際交流担当の皆さんとお別れをしました。私たちが快適な滞在ができるようにサポートし、暖かく手厚くもてなしてくださった皆さん、そして共演してくださった管弦楽奏者および合唱の皆さんに感謝の意を述べたいと思います。私たちは富士宮での最高の思い出を今でも持ち続け、そしてまたいつの日か再び訪れるのを楽しみにしています。Sayonara!



▲これから宝永山まで登ります

◀市役所でのミニコンサート

市民交流コンサート開催 2012年7月27日(金)

故郷を離れて…

ドイツ ハレ在住 市川 克明

(演奏旅行総責任者、企画立案担当者)

私がドイツ東部の町ハレに住み、すでに13回目の春を迎えています。そして、高校卒業までの18年間生まれ故郷である富士宮で過ごしました。その頃の私の行動範囲はこの富士宮、富士市内でした。中学2年の時、吹奏楽でトランペットを始め、高校でホルンに、そしてそれを専門として音楽大学に進学しましたが、その当時、まさか自分がこんなにも長くヨーロッパに住むとは思っていませんでした。

昨年7月、私の第2の故郷、ハレの大学オーケストラの日本演奏旅行に同行し、仙台での滞在の後、富士宮を訪れました。素晴らしいオーガナイズと歓迎ムード、そして何よりも富士宮とその近郊を代表する地元の音楽家の皆さんと共演できたことは、喜びであり、仲間に対してある種の誇りを感じました。ドイツの友人たちも、小さなところすべてにまで行き届いた配慮に驚き「Katsuaki、君の故郷は素晴らしいところだね。こんなにも親切で暖かく僕たちを迎えてくれて、君がどんな幸せな少年時代をすごしたかよくわかるよ」と、毎日感謝の言葉を私にかけてくれました。親友たちのそんな言葉に、本当に彼らを連れてきてよかった、と思いました。

また、私は現在、ハレ大学の音楽学学部にも所属し博

士論文を書いています。そのテーマである作曲家アントニオ・ロゼッティのシンフォニーの日本初演を故郷で指揮できたこと、これも何にも勝る素晴らしい経験となりました。

故郷を離れて30年、懐かしさ、幼い頃の思い出、少年時代一緒に過ごした仲間たち、人生に大きな影響を与えた恩師、数々の思いが交差しましたが、この滞在中はそこまで考える余裕はありませんでした。すべての日程が終わり、ドイツに戻り、今回同行したメンバーたちから感謝の言葉をもらい、「またぜひ一緒に行きたい」と言われ、その時初めて「友人たちを私の故郷に連れて行ってよかった」そう思いました。そして私自身が本当に少年時代、富士宮ですばらしい日々を過ごしたのだ、と改めて考えました。

人口13万あまりの都市の富士宮で、このような国際的な企画が長い歴史を持ち、受け継がれていることを、素晴らしいことであると思うと同時に、そこには並々ならぬ市民の皆様、関係各位の努力があったことを思います。またいつか、別の形で音楽を通じ、交流が行えることを期待するとともに、今回の演奏会と私の友人たちが富士宮ですばらしい滞在をさせてもらったこと、深く感謝致します。



世界の料理教室

第1回目は6月17日、ブラジル・ロンドリーナ出身の野木ヒロコさんを講師に迎え、「ブラジルの台所から」を開催。24人の受講者と共に、ラテンムードなひと時を過ごしました。中でも鶏丸ごと1羽使ったチキン・グリルのダイナミックにびっくり！また、最近ではスナックとして定着しつつある「パステル」も楽しめました。最後はポルトガル語で「ありがとう」を覚えてもらい、「Obrigado/Obrigada」とあいさつをして終了しました。

富士宮市や近隣の市町に暮らす外国出身者や海外生活経験者に、その国の料理を紹介してもらい、食を通して異文化を知ることが目的とした「世界の料理教室」。今年度は4回、4カ国の料理を紹介しました。



ブラジル料理はダイナミック！



鶏をさばく手元に注目

3回目は2月16日に、フィリピン出身の引間マリサさんを迎えて「フィリピンの家庭料理」を開催。日本人だけでなく、フィリピン籍の人も参加。故郷の味が懐かしくなったのでしょうか？私たちにとって身近でありながら、実は意外と知らなかったフィリピンのこと、たくさん知ったような気分になった料理教室でした。

2回目は9月30日、韓国籍で文化交流委員のメンバーでもある鄭美佐恵さんを講師に迎え、「韓国の家庭料理」を開催。定員15人のところ、あっという間にキャンセル待ちまでで人気講座になりました。メニューは鱈とズッキーニのジョン、タック・ジャン、季節のナムル、宮廷トポッキの4品。料理好きな人に加え、韓国が好きな人も多く参加。料理中も試食後も韓国事情を尋ねていました。



陽気な講師陣



お寿司の味ってこれ？大人気の日本料理

4回目は3月3日、世界は世界でも日本のお料理を世界に紹介しました。お料理好きな在住外国人にとって、せっかく日本に暮らしているのだから、料理も作ってみたいはず。スーパーですぐに調達できる「だしの素」や「寿司酢」などを使って、簡単だけど見た目はきれいで豪華な、チラシ寿司や野菜てんぷら、茶碗蒸しを作りました。

次年度も食を通して、いろいろな国の文化を紹介していきたいと思います。この国やこの地域の料理を知りたい、というリクエストにもできるだけお応えします。

※これまで開催してきた「世界の料理教室」のレシピはFAIRのホームページ上でご覧になれます。

国際理解講座

異文化を理解することを目的に開講しています。平成 24 年度は共催を入れて 4 回の開講となりました。

アミーナと踊ろう！

第 1 回目は 6 月 30 日（土）、元富士宮市教育委員会 ALT のアミーナ・アサンテさんを迎え『アミーナと踊ろう！』を開催。参加者はダンスに興味津々の 22 名。

アミーナさんが紹介する『ズンバ（ZUMBA）』は創作されたフィットネスプログラム。主にラテン音楽のステップから引用されたものが多く、激しい動きではなく誰でも出来るダンスだったので、参加者の中学生からご年配の方々まで、音楽に合わせて楽しく踊りました。アミーナさんも久しぶりの富士宮、旧友たちとの再会も果たせ、楽しんだ様子です。



Let's Dance!

夏休み！子ども英語講座

第 2 回目は 8 月 9 日（土）、市内在住で英会話クラスを持つ、岩村・ウィリアム・雅浩さんを講師に迎え、小学生を対象にした「こども国際理解講座『夏休み！子ども英語講座』」を開催。参加した子どもたちは 13 人。あいさつや発音、ゲームや工作を取り入れたレッスンでは、自然に体へ入ってくる英語がおもしろく、興味津々楽しみながら英語を使うことを憶えていました。

ティーチャー
ウィリーの
楽しい
English



ロンドン成り行き半世紀 講演会

富士宮出身、英国の法廷弁護士の資格を持ち、ロンドンに住む宮崎満江さんが一時帰国の際にお招きし、「NPO 法人まちづくりトップランナーふじのみや本舗」との共催で講演会を開きました。

会場はほぼ満席、高校時代の同級生という方や、教職時代の同僚の方も聞きつけてやってきました。

40 年前に 1 ヶ月かけて船、飛行機、電車を乗り継いでイギリスへ渡ったところから、金融業、法律を英語で学び現在まで来たことは並大抵の努力ではないと思いますが、ご本人は「成り行きなんです。私はいつも周りの人に恵まれています」とおっしゃっていたのが印象的でした。



もっと韓国 文化と言葉について知ろう！

第 3 回目は年が明けて平成 25（2013）年 1 月 27 日（日）、元 NHK 国際局アナウンサーの金裕鴻（キム・ユホン）さんを講師にお迎えし、『もっと韓国・文化や言葉について語ろう』を開催。40 人定員のところあつという間にキャンセル待ちリストが出来上がってしまい、結局の参加者は 43 人。韓国人気の凄さに目を見張りました。

金先生は、NHK 時代や大学で教鞭を振るって感じてきた自らの経験を元に、韓国と日本の文化の違いの戸惑いや、外国語を理解する楽しさを面白く語りました。そして、言葉や文化を理解する近道として、友だちを作りなさいと何度も仰っていました。きっとそれは韓国語だけでなく、他の外国語を学ぶ上でも、また外国人が日本語を習得する上でも重要なことなのでしょう。



NHK 国際局アナウンサー 金先生のトーク

FAIR 外国語学講座

- 第1期 5月～7月
- 第2期 9月～11月
- 第3期 1月～3月

今年度は初級英会話を3期分、中級英会話を2期分、中国語を3期分、韓国語を1期のみ開催しました。

24年度の中級英会話は、市役所から離れてしまったり、会場の都合で休講になったりで、受講者の皆さんにご迷惑をおかけしました。

韓国語講座は、講師が帰国したため、1期のみで開催でした。また、機会があれば別の形で韓国語、および韓国関連の講座は開講したいと考えています。ご期待ください。どの語学講座も、現在定員の半数で講座



中国語

を開催していますが、少数精鋭で受講生から学習しやすい、と好評を得ています。また、熟練の講師らの進め方が上手く、「勉強している」感というものを感じさせません。楽しみながら進めているので、あっという間に時間がたってしまう様子です。

週に1回90分の短時間ですが、少しでも外国語に触れているという環境で、耳と口を慣れさせる良い機会。旅行や仕事で使うちょっとした表現。外国の友だちと話していて、あれ?と思った表現を考え直すチャンスでもあります。今年も語学を始めて、続けていきませんか?



中級英会話

海外レポート2

イギリスの香港、中国の香港

塩川 小百合



IDの更新のため、3年ぶりに香港を訪問。しばらく離れていた間の変化は、中国大陸からの観光客が激増!領土問題の影響で、日本へ来る観光客の足が香港に向いたようです。海外ブランドショップの前には、かつて日本人が行列したように、中国人が並び、たむろしていました。

香港は1997年7月に英国から中国に返還され、「英国植民地」という立場から「中国特別行政区」になりました。でも、とりわけ人々の生活が大きく変わった訳ではありません。返還、アジア通貨危機、SARSと大きな波が襲いました。香港に住む人々は、国籍も人種も宗教も多種多様ですが、この波を共に乗り越えて来たからか、住みやすい街、政治のきれいな街、自由な街と、人々の思いは一致しています。そしてどこか心の中で、「大陸に住む人々と

は違う」という意識があります。

下町の市場などへ行くと、さすがに観光客は入って来ません。生活の空気があり、店のおばさんとあれこれやり取りの買い物も、変わらない懐かしさを覚えます。3年前の訪問では、中国語で話される割合が高かったのですが、今回、観光客が話す中国語は耳に入って来るけど、話しかけられる言葉は英語と広東語。なんだか97年以前に戻ったようでした。

英国領香港旗を掲げ、中国政府に対してのデモが起きている背景があるからなのかもしれませんが、3年に一度ではなく、毎年行って香港の動きを確かめたい、という思いが生まれた訪問でした。



国際交流パーティー

国際交流パーティーは、基本的に「ポットラック」つまりは持ち寄り。参加者が食べ物、飲み物を持って集まります。だから、場合によっては、とってもエスニックな食事だったり、おいしいお酒が飲めたりと様々。今年度は3回開催しました。

第1回目は7月7日(土)『七タポットラックパーティー』を開催。参加者は51人。おしゃべりや音楽を通して国際理解を深める事を目的としました。

二胡の演奏や日本語を学ぶ中国からの留学生たち、フィリピンやパキスタン出身の参加者がお国の歌を歌ったりして、会場を盛り上げてくれました。



いろんな国の料理が並びます



みんな気軽にしゃべり



ノスタルジックな二胡の音色も



中国の歌を披露しまーす



第2回目は10月13日(土)『ポットラックパーティー～月宴～』を開催。参加者は48人。月をテーマに日本の箏とインド舞踊がコラボし、会場はエキゾチックな雰囲気。今回は夜で、お酒もOKという事もあり、気分よくおしゃべりしている方もいらっしゃいました。締めは『炭坑節』!歌って踊ってのパーティーとなりました。



パキスタンカレーも登場



インド舞踊と和楽のコラボ



第3回目は、11月に行われた国際交流フェスティバルの反省会兼打ち上げポットラックパーティーを開催。フェスティバルの実行委員と出展者が集まりました。

モンゴル出身の方にモンゴルの話をしてもらったり、それを受けて南国のフィリピンの方がカルチャーショックを受けたり、と面白い交流も生まれました。フェスティバルの反省も前向きになるような、明るい打上げでした。



踊りましょう!



夜のパーティーは大人の雰囲気

FAIR 日本語教室 (by 日本語の窓)



FAIR 日本語教室 グループに分れてレッスン

外国籍市民に向けての、日本語教室は、毎週火曜日の夜に開催（1期10回、年間30回の開催）しています。この日本語教室は平成6年から開いていますが、平成19年に日本語支援ボランティアの有志が集まり「日本語の窓」を立ち上げ、現在の教室のかたちを作りました。

今年度の受講者の多くは、中国、ベトナム、フィリピン籍の皆さん。アジア色が濃い教室になりました。途中参加も可なので、初回は10人程でも、友だちを呼んだり、うわさを聞きつけて、5回目くらいには20人近くなることもあります。

受講者のレベルや目標は様々ですが、同じ日本語力のグループに分かれ、日本語教師と日本語支援ボランティアの皆さんがFAIRオリジナルのテキストを使って、会話、文法、作文、日本語検定に向けて、など受講者の目標や希望を聞きながらレッスンを行っています。



富士宮市で日本語を 学ぶ・教える



ACC 国際交流学園

多文化共生委員会 渡邊 紗由里



習った日本語でインタビュー

留学生の皆さんと「楽しく会話をして話し方を学ぼう！」という授業に参加しました。

留学生、日本人の皆さんがお互いに自己紹介をした後、その内容に基づいて留学生の皆さんと順番に話し、初対面の人とどう話したら良いかということをおアドバイスしました。

私自身は、「家には犬がいます」という話をしたときに、学生さんがご実家の犬の写真を見せてくれたり、旅行の話をしたときに、同じ所に行ったことがあって盛り上がったり、初対面でも短い時間で様々な会話が出来ると感じました！

にほんご Club みやはら (by にほんご応縁団)



日本の文化を学びます

「にほんごclubみやはら」では、2～3人の小グループに1人のボランティアが付き添い、お喋りしながら日常生活に必要な言葉を無理なく自然に楽しく学んでいます。とは言え、日本で生活する以上、会話だけでなく読み書きも必要となります。そこで初めて参加される方は、まず基本となる平仮名と片仮名を練習します。初めは全く書けなかった参加者も、今ではすっかり上達し、私よりも綺麗な文字を書いています。

季節の行事も取り入れていて、七夕には短冊に日本語で願い事を書いたり、ゲーム感覚で指定アイテムを広告チラシから探し出し、賞品や特売期間、価格など

日曜日の午後 3:00 ~ 5:00

多文化共生委員会 朝日郁江

それぞれ順番に答えてもらったり。人前で声を出して発表することで、恥ずかしいという気持ちが克服でき、日本語で話す度胸がついていきます。

☆「にほんご応縁団」は富士宮に住む、日本語を勉強したいみなさんのニーズにこたえるべく進化中です。さまざまな形での日本語サポートを行っています。お気軽にご相談ください。応縁団も募集中！



にほんご
日本語を勉強したいひと
教えてみたいひと
みんな集まれ！！



相手との共通点を見つけたらそこから会話が弾み、お互い打ち解けることができること、相手のことを知りながら、次の会話が見えてくるということが印象的でした。

最初はお互いに緊張していましたが、私たちとの交流に明るく笑顔で接してくれた留学生の皆さんの対応が嬉しかったです。



小中学校で日本語と学習

■ 外国につながる児童生徒の日本語および学習支援 ——

市内の小中学校に通う外国籍児童生徒に対し、その子の通う学校へ赴き、支援を行っています。



日本語学習指導をする大賀さん

多文化共生委員会 大賀 典子

外国籍の子どもたちの支援、楽しくやっています。大切にしているのは、「Open mind」と「Respect」。

ことばも文化も違う環境にいる彼らに寄り添い、心の壁・不安・ストレスをできる限り取り除いてあげる。そして、自分たちのものさしで測らない、目に見えるものだけで判断しないこと。その上で、日本語と学習の手助けをするのが私たちの役目だと思います。あくまで手助け、子どもたちは自分の力で成長していきます。この先まだ、彼らにはたくさんの困難もあるでしょう。その為の力をつける手助けになりたいという思いとともに、彼らをとりまく日本での環境が、本当の意味での多文化共生（上の2つを大切に）に近づくことを願います。



ゲーム感覚で日本語を覚えていきます

多文化共生委員会 杉山 千佳

来日当初、外国籍の子どもたちは、母国の友達と離れ、全く分からない日本の生活に大きな不安とストレスを抱えています。心細そうな顔をしています。ボランティアが寄り添い、一緒に日本語の勉強、学校の勉強をすると、子どもの固い表情がほぐれ、笑顔になります。子どもの笑顔は励みになります。子どもたちは、半年もすると、クラスに馴染み、簡単な日本語は話すようになり、少しだけ読み書きもできるようになります。私にとっては、子どもたちが友だちと遊び勉強が分かったときの笑顔を見ることが、最高の喜びであり幸せを実感するときです。



子どもに寄り添う学習指導をと、杉山さん

進学支援を行っています

■ 外国につながる生徒と保護者のための進学相談会 ——

多文化共生委員会 望月美登里

7月30日(月)18:30より、市立大富士中学校にて、市内の外国につながる生徒とその親子対象に、進学説明会が開催され、スタッフとしてお手伝いしました。

高校からは、富士市からの1校も含め公立5、私立1高校が揃いました。それぞれ学校方針、目指す生徒、カリキュラム、制服、経費、通学方法等細かな説明がなされ、親子でパンフレットを見ながらで熱心に聞き入り、いくつかの質問も出されました。

日本人でも様々に迷う問題なので、富士宮在住歴や日本語力(学力も含め)、家庭環境や経済力も様々な彼らが、決定に至るまでには大変だろうと思います。やはり、入ることより続けられることが大事だと思います。

これからも私たちにできる支援があれば、していきたいと思いました。

多文化共生委員会 望月奈保子

真剣な眼差しで学校紹介を聴く参加者の姿が印象的でした。日本という異国の地でも我が子にしっかりとした教育を受けさせたい、という親御さんの気持ちが伝わってきたとともに、自発的に質問をするお子さん(中学生)の姿から、高校進学への意欲を感じました。通常の進学説明会のスピードでは理解し難いところを、通訳サポーターがフォローすることにより“進学についての不安を解消し、わからないことをわからないままにしない”この説明会が、是非続いてほしいと思いました。また、参加して下さった学校の方々にも、外国人生徒の存在を知って頂ける貴重な時間であったと思います。外国から来た方々は、慣れない文化や言葉に苦労されていると思いますが、応援している多くの日本人が富士宮市にいます。共に歩いていけたら幸せだな、と感じました。



分かりにくいところは通訳が説明



高校からも入学についての話がありました



熱心に子どもの進路を考えます

FAIR では、日本語が母国語でない外国籍市民を支援する日本語支援ボランティアを希望する人に、日本語の教え方などを教授する養成講座を開催しています。

また、養成講座を終了した人や、現在ボランティアとして活躍している人のために、多文化共生委員会では情報交換や教え方などが相談できる勉強会を開いています。

外国人のための日本語支援ボランティア養成講座

多文化共生委員会・A.C.C 国際交流学園 校長 渡辺 佳代子



2012年11月より2013年2月にかけて、富士宮市国際交流協会より委託を受け、A.C.C. 国際交流学園が「外国人のための日本語支援ボランティア養成講座」を実施しました。

今回も意欲あふれるみなさんが集い、市内の日本語支援の概況、日本語の文法や教え方、異文化コミュニケーションなどを学びました。

数回ではありますが、これらの内容は押さえていただきたい大切な基本です。ここからは、実践を通して、対応の仕方やテクニックを身につけていってください。

今後、ご近所で、小中学校で、新たな日本語支援の担い手として、自信と責任を持ってご活躍いただけることと期待しております。

「にほんご応縁団」勉強会

多文化共生委員会 西村 久美子

市内の小中学校、日本語教室など、さまざまな場でボランティアをしているみなさんが、情報交換しながら、教え方を学んだり、また疑問を解決したりする場として、毎月第2金曜日の午後、中央公民館の会議室で行っています。

回を重ねるごとに、ボランティアのみなさんのお話が盛りあがってきました。同じボランティア仲間の実践を聞くことは、何よりの学びです。

また、ここで出された課題は、そのまま地域日本語支援の解決すべき課題でもあります。

「にほんご応縁団」のメンバーは、この場で苦楽を分かち合い、ここから新たなステップへ踏み出していきます。



富士宮市国際交流協会主催 外国人児童生徒支援研修会

未来の富士宮の教育

～多文化共生の視点から～

講師 静岡大学教職大学院准教授 矢崎満夫氏

2月1日金曜日、富士宮市国際交流協会主催、富士宮市教育委員会後援で、日本語ボランティア養成講座の一環として、静岡大学教職大学院准教授・矢崎満夫氏を講師にお迎えし、特別研修会を行いました。

当日は、市内小中学校の先生方や、東部教育センター相談員や市青少年相談センターの方、日本語ボランティアや日本語教師など、様々な立場でこの問題に関わる約40名が受講。

市教委学校教育課・川口秀也指導主事より富士宮市の現状と課題についての報告後、散在居住地域における外国人児童生徒等支援の事例紹介（静岡市の場合）、外国人児童生徒等支援のための資料、および教材に関するURL等を紹介し、年少者の第二言語習得－日本語を母語としない子どもたちの場合－（ジグソー学習）、「つながりづくり」の日本語支援（学校関係者と支援者との連携のあり方について）、「富士宮市におけるこれからの支援



態勢」（グループワーク）といった内容で、学びを深めました。

初めての試みではありましたが、児童生徒学習支援のために、関係するみなさんが、お互いに知り合い、連携を深めることにより、新たな枠組み作りへ向けての第1歩となったのではないかと思います。



防 災



平成 24(2012) 年 10 月 21 日 (日)、市役所を会場に外国籍市民を対象にした防災訓練を開催しました。この訓練は、2007 年より毎年行っていますが、大きな震災を経験した昨年度以降、参加者の意識がかなり変わっ

多文化共生委員会 佐野 哲 郎

今回の防災訓練を実施してみて、思っていた以上に外国人の方々の地震・震災に関する知識が薄いと感じました。外国人の方々の母国では日本とは違い、地震が少なく地震に対しての備え・対策は知らなくて当然です。そのため、今回の防災訓練は今後も日本で生活する外国人の方々にとっては、大変貴重な体験だったと思います。

参加していた外国人の方々の真剣に取り組む胸中に

甲府市「♡ハート 51」を視察しました！

多文化共生委員会

委員長 西村 久美子



2013 年 3 月 1 日 (金)、我々、多文化共生委員会メンバー 4 人と FAIR 事務局で、多文化共生に熱く取り組んでいると評判の、一般社団法人多文化リソースセンターやまなし代表理事・加藤順彦さんを訪ねました。

はじめに向かったのは、南アルプス市のブラジル人学校・イノヴェ学園。あたたかい家庭的な雰囲気のある学校を運営しているのは、ブラジル人園長・上原イリネウさんご一家。ここにはブラジル人の子供だけでなく、多国籍の 0 歳から小学生までの子供 35 人が通って

のための

訓練

たことを感じます。

訓練では、防災グッズの展示、煙体験、消火訓練、ロープワーク、防災講話、非常食試食、そしてカードゲームを使い、非常時への対処を考えました。

は、以前富士宮市で起きた大きな地震の怖さを身をもって体験し、準備・認識の大切さを学んだからだと思います。

今後も、「外国人のための防災訓練」を継続し、より多くの外国人の皆さんに参加いただき、地震・震災に対する万全の対策と準備をしてもらいたいと思います。



います。日本人の保育士さんもいる非常に整った環境の中、子どもたちは生き生きと、楽しそうに、きちんと学んでいました。保護者の方も安心して任せられる学園です。

夫人の手料理による美味しい昼食をご馳走になったあとは、甲府市にある加藤さんの事務所へ向かい、多文化共生活動の様々なお話をうかがいました。

ブラジルに30年暮らしていらしたという加藤さん。外国人散在地域の甲府市で、あらゆる外国人問題に関わりながら、日本語を指導したり、映画やスポーツを介したイベントを企画したりと、行政にもできない事業を次々と展開。現在は外国人自らによる活動推進を広めたいそうです。お忙しいにもかかわらず「楽しい



多文化共生委員会 石川 祐三

外国籍住民の防災訓練は、2011年3月11日の東日本大震災、その4日後に起きた静岡県東部地震の体験から、積極的に参加している様子うかがえた。日本人は、子供の頃から地震を身近に見て聞いて学びそして学校・職場・地域で毎年行われる防災訓練に何らかの形で参加しているが、それでも知識や備えが不足している事が多い。ましてや地震を知らない多くの国から来ている人々たちにとっての不安は大きいと思われるため、今後とも可能な限り現場を想定した内容で訓練を継続したい。また、今後地震の震度の差がどれだけ身近な被害の大きさにつながるかを知るためにも、起震車体験をとり入れてはと思う。



産業絵フェア開幕

FAIR 国際交流フェスティバル 2012 秋

2012年11月17日(土)／18日(日)
富士宮市民体育館で開催

平成24年度のフェスティバルは、市制施行70周年産業フェア内で開催。より大きなイベントが集まったものとなり、フェスティバルへの来場者は、17日(土)約5,000人(産業フェア 約12,000人)、18日(日)約18,000人(産業フェア 約30,000人)を数えました。

展示は、ラテンアメリカ研究会(ブラジル、アルゼンチン、スリランカ、パキスタン、中国、イラン 各国の紹介展示など)、モンゴル富士友好協会、ヒップファミリークラブ、JICA、防災VC、富士宮市観光協会、富士宮国際姉妹都市協会、ウルトラトレイル・



韓国 栄州市の栄光中が太鼓を演奏



ペルーの踊りもすてきでしょ？



日本の碁に挑戦

マウントフジ、富士宮整体協会が出展。体験は、箏と尺八、押し花。



ハワイアンフラにうっとり



モンゴルの民族衣装を着てみました



フィリピンの民族舞踊



お国のことおしえてください

パフォーマンスは、野外特設ステージと体育館のライブスペースで、太極拳、フラメンコ、フラダンス、フィリピン民族音楽、南インド舞踊などの音楽や踊りのパフォーマンスを展開。

また、友好提携を結んだばかりの韓国榮州市から、栄光中学の教員と太鼓演奏グループが来宮し、産業フェアの開会式を飾りました。フェスティバルの中でも2回、演奏を披露。市内の中学校で交流した後なので、富士宮の中学生たちからも声援が飛んでいました。栄光中のメンバーは榮州市の紹介パンフレットや



良い音が出るかな？



今年も人気のブラジルバーガー



作り立てのドネルケバブ おいしいよ

特産物の朝鮮人参エキスが入ったキャンディやゼリーを来場者に配り、榮州市をPRしました。

屋外の食ブースでは、ドイツビール、ブラジルのバーベキューやファストフード、トルコのドルネシアサンド、インドカレーなど4カ国の料理が人気を集めていました。1日目は雨天のため客足も少なかったのですが、2日目は打って変わった晴天。どの店も大繁盛でした。



かっこいいフラメンコ



チャイナ服似合うかな



こっちのも飲んでみて



第3回
写真
コンテスト

私が見た世界 結果発表

3月4日(月)～8日(金) 市役所市民ホールとfacebook上で開催

★海外での思い出、外国の方が日本で心に残ったひとコマ★

金賞

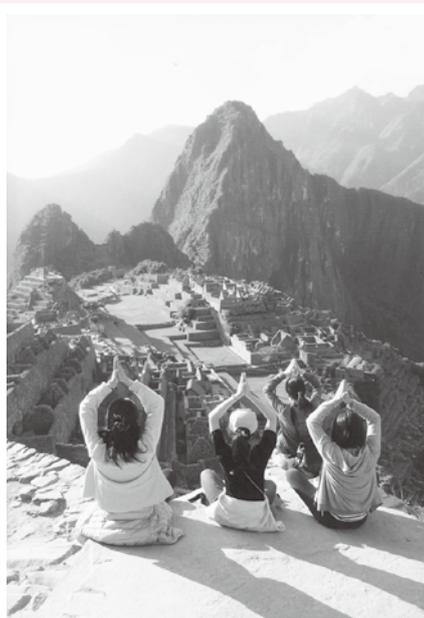
渡邊 勲
「Christmas
on GUAM」
(米国・グアム)



2012年グアムの街中の公園にて。南国らしいクリスマス。

銀賞

大賀 智世
「マチュピチュでヨガ」
(ペルー・マチュピチュ)



世界遺産と大自然に囲まれてヨガのポーズ。最高の一時。

銅賞

ヌグロホ・パルモ・サンディニンティアス
(インドネシア出身)

「日本ポスト」(日本・富士宮市)



アニメとかで見たことがあったけど、実物は見たことがなかった。大きくて目立っているニッポンのポストを実際に目にしたとき、歴史的な雰囲気を感じた。日本の独特の一つだと思う。

編集・レイアウト・発行/
FAIR会報編集委員会
代表 塩川 小百合
〒418-8601 富士宮市弓沢町150
富士宮市国際交流協会
TEL (0544) 22-1486
E-Mail info@fair-fujinomiya.com
URL http://www.fair-fujinomiya.com

デザイン・印刷/
株式会社 いんさつ
TEL (0544) 27-4055

※平成25(2013)年4月1日より、
富士宮市国際交流協会 事務局管轄部
署が、富士宮市役所の「市民生活課
市民交流係」に変わります。

編集後記

早いもので、私がFAIRに関わって8年が経ちます。香港から富士宮に嫁いで間もなくだったので、私の富士宮歴とおなじくらいでしょうか。広報委員として、事務局として携わってきましたが、今年度で幕を引くことになりました。

広報委員会へとお誘いくださった村上様、事務局へと声をかけてくださった廣瀬様、佐藤様、ありがとう

ございました。また、叱咤激励してくださった大石前会長と白垣会長、および専門委員会のメンバー、お世話になりました。最後の任務が、この会報の編集発行なんて、新聞屋だった私らしいじゃない！と自我自賛。増ページとなった大作を編むことができ、できて光栄です。好多謝大家 有機

（事務局 塩川 小百合）